

2018/06/17

「神の国と神の義を求めよ」

「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」(マタイ 6:33)

■神の国を求めよ

神の国とは、旧約聖書から続く約束の一つで、悪が滅ぼされて永遠なる神が支配する、滅びることのない世界のことです。

この世に来られたイエス・キリストは、宣教活動を開始する際、「神の国が来た」と言われました。

人は、この世界で神との結びつきを失った状態にあり、永遠のいのちを失った状態にあります。有限の存在である人間と、永遠に滅びることがない神との間には、大きな溝があるのです。

人が確実に滅びる存在であることを、神は「死んだ状態にある」と言われました。そこに、イエス・キリストが、滅びることのない永遠のいのちを持ち込まれたのです。これが「神の国」です。

つまり、神の国とは、私たちが死からいのちに移ることを指します。イエス・キリストとの結びつきを取り戻すことによって、私たちは永遠のいのちを取り戻すことができるのです。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。まことに、まことに、あなたがたに告げます。死人が神の子の声を聞く時が来ます。今がその時です。そして、聞く者は生きるのです。」(ヨハネ 5:24-25)

「神の国を求めよ」とは、まだイエス・キリストを信じていない人に対して、「イエス・キリストの言葉を信じ、死からいのちに移されなさい。」という意味です。

信じた人は、すでに神の国を手に入れています。神の国を得ることを、永遠のいのちを持つという言い方もできます。

「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」(ローマ 6:23)

神の国とは永遠のいのちです。それは、イエス・キリストとの結びつきを取り戻すことです。これは、神が下さるプレゼントです。神は私たちの魂に常に呼びかけ、その御手を差し伸べておられます。その呼びかけに応答するなら、誰でも救われるのです。

神との関わりを回復すると、神の国は私たちのただ中に存在するようになります。そして、

そういう人に対して、「神の義を求めよ」と聖書は語っています。

■神の義を求めよ

「神の義」に対しては、一般に二つの解釈があります。

伝統的には、「神が私たちが義としてくださること」と解釈されます。しかし、近年は、「神ご自身が義であること」と解釈されることが多くなってきました。神が私たちが正しいものとしてくださり、救ってくださるという解釈も間違っていないかもしれませんが、文法的には、後者の理解の方が、無理がありません。

「それは、今の時にご自身の義を現すためであり、こうして神ご自身が義であり、また、イエスを信じる者を義とお認めになるためなのです。」(ローマ 3:26)

イエス様ご自身が義であり、イエス様を信じる者が義と認められるのです。つまり、「神の義を求めよ」とは、「イエス・キリストを求めよ」ということであり、「キリストに近づき、神との交わりを深めなさい」という意味になります。

「こういうわけで、ちょうどひとりの違反によってすべての人が罪に定められたのと同様に、ひとりの義の行為によってすべての人が義と認められ、いのちを与えられるのです。」
(ローマ 5:8)

ひとりの義の行為とは、イエス・キリストの十字架のあがないのことでです。

この世界に生きている私たちは、有限（すなわち死）という不安のために、見えるものにしがみついて生きています。そのために、イエス・キリストを信じ永遠のいのちを手にしても、世の楽しみが優先されてしまっていて、見えるものを求める生活を切り替えることができず、なかなか神に近づこうとすることができません。その結果、神の御心に反する肉の思いによって倫理的な罪を犯してしまいます。

人が罪を犯すのは、個人個人に責任があるのではなく、この世界が有限であり神が見えないという構造的な問題のせいです。イエス・キリストは、この罪をいやすために十字架に架かったのです。十字架のあがないによって、神と人が親しい関係を築くことができるようになるためです。

「しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」(ローマ 6:22-23)

イエス・キリストを信じた時に永遠のいのちをいただいた私たちが、さらに「永遠のいのちに行き着く」とは、信じた私たちがさらにイエス様と親しい関係を築くという意味です。

神様がいやしてくださる罪には、神を信じない罪（罪 A）と、肉の行いと言われる、倫理的な罪（罪 B）とがあります。イエス・キリストを信じることで、罪 A は赦され、永遠のいのちを持ちましたが、神が見えない世界で見えるものにしがみついてしまう肉の行いという罪（罪 B）がなくなったわけではありません。

「永遠のいのちを持ち、永遠のいのちに行き着く」とは、イエス様という医者に出会ったのだから、これからはイエス様の治療を受けることができるということです。それによって、罪 B がいやされ、つらさから解放されていくのです。これを、まだ永遠のいのちを持っていないとか、罪を犯さなくならなければ永遠のいのちを手にするできないなど、勝手な解釈を加えてはいけません。

■十字架のあがないを求めよ

「神の義を求めよ」とは、「キリストに近づき、交わりを深めよ」という意味です。しかし、見えるもので安心しようとする思いがある限り、イエス・キリストとの交わりで安心を求めようにはなりません。そのため、イエス様は、十字架で「私はこれほどあなたを愛している」と示し、キリストに目を向けさせ、肉の行いという罪をいやしてくださるのです。ですから、「神の義を求めよ」とは、「キリストの十字架のあがないを求めよ」ということになります。

「しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。」（Iヨハネ 5:20）

私たちがイエス様と交わって親しい関係を築こうとする邪魔をするのが罪です。ですから、イエス様と交わるためには、罪を排除する必要があります。この罪を排除するものが十字架のあがないです。

「——このいのちが現れ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠のいのちを伝えます。すなわち、御父とともにあって、私たちに現された永遠のいのちです。——私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。」（Iヨハネ 1:2-3）

永遠のいのちとは、永遠に生きられる命という意味ではなく、イエス・キリストを指します。

「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」（Iヨハネ 1:9）

イエス様に罪を言い表すことが、私たちの罪を排除する唯一の方法です。それによって、罪が取り除かれ、イエス様を愛することができるようになります。こうして神の愛を知ると、神を愛することが重荷とはなりません。

イエス様は、多くの罪が赦された者が多く愛するようになると言われました。罪を告白すると、きよめられ、交わりを深めることができ、神の友となり、平安を得ます。これが神との交わりであり、神の義を求めるといことです。

永遠のいのちを得るとは、救いというただ1度の出来事を指すのではなく、その後も続くものです。罪を告白して神との交わりを邪魔する罪を取り除き、神との豊かな交わりを築くことまでが、永遠のいのちなのです。

■神と親しく交わるために

神の前に罪を言い表して祈ると、平安になります。私たちが罪を犯すのは、不安のせいです。ですから、平安こそいやされた状態です。

私たちは本来、神との交わりによって安心して生きる存在です。ところが、神が見えなくなって不安になり、見えるもので安心しようとして、それにしがみつこうようになったのです。神抜きで安心しようとする、人の愛を求めることになり、必死になって人から良く思われようとし、すると、人と自分を比べて嫉妬したり、ねたんだり、怒りや敵意を覚えるようになります。結局、見えるものに安心を求めるとは、不安しか生み出しません。すると、不安は再び見えるものに安心を求めようとするので、いつまで経ってもイエス・キリストに心を向けることができないのです。

イエス・キリストは、私たちが罪を告白していやしを受け取ることができるように、神に心を向けても大丈夫だということを示し、あなたが愛されていることを証明するために、十字架に架かったのです。こうして私たちは、心を神に向けられるようになりました。罪を告白すればするほど、不安から解放されます。イエス・キリストが十字架に架かったのは、本気であなたを愛していることを証明するためなのです。

「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」(Iヨハネ 4:9-10)

私たちの不安を消し、神に近づけることができるものは十字架の愛です。神の義とは、十字架の愛であり、神の義を求めるとは神に近づくことです。

「わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」(ヨハネ 10:10)

イエス・キリストがこの世に来て十字架に架かられたのは、私たちが永遠のいのちを持つよ

うになり、イエス様を深く知って、イエス様との交わりを豊かなものとするためです。多くの人は、永遠のいのちを持って、見えるものに安心を求めているために、イエス様との交わりができません。ですから、十字架に架かることが必要だったのです。

「わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。」(ヨハネ 15:15)

イエス・キリストが私たちに願っていることは、友としての関係を築くことです。これこそ、神が人を造った目的です。

「神の国と神の義を求めよ」とは、神との関係を取り戻すことを求め、イエス・キリストとの深く親しい関わりを求めよということです。それが、「永遠のいのちを持つ者が行き着く先は永遠のいのちである」ということです。あなたは、神の義を求めて生きているでしょうか。

神を知った私たちが、神に近づき、神と交わるためには、罪を取り除いていただくことが必要です。神と親しく交わることを邪魔している罪を排除する方法は、神の前に罪を告白して、ただ祈るだけです。そうすれば、イエス様が罪を取り除き、いやしてくださいます。

イエス様は、すでに私たちのことを友と呼び、共に過ごしたいと願って、ご自分のそばに来るように招いておられます。私たちは、ただそれに応答して神に近づけば良いだけです。これが、「信仰から信仰に至る」ことであり、「義から義に至る」ということです。